

事務事業名	南湖第二保育所維持管理事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5171									
	☐ 実施計画事業		所属課室	南湖第二保育所		課長名	秋山朝子									
			所属担当			担当者名	秋山朝子									
基本政策	基本計画	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策	計画	17 社会福祉の充実	事業区分	01	一般	0	3	0	2	0	1	8	0	0	5	
施策	体系	28 児童福祉の充実		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設の維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金												
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度) 年度)	法令根拠														
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・消耗品費・燃料費・光熱水費・修繕料・通信運搬費・手数料・施設維持管理委託料・原材料費(砂場砂)等の直接児童に関わらない管理経費		事業費の主な内訳 (22年度)													
			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)													
			消耗品費 32 手数料 100													
			燃料費 219 施設維持管理委託 106													
				光熱水費 1,092 使用料及び賃賃料 278												
				修繕料 70 原材料費 40												
				通信運搬費 78 計 1,771												

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	予算の執行 委託契約事務・施設の修繕箇所
23年度活動予定	予算の執行 委託契約事務・施設の修繕箇所
② 対象 (この事務事業は誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	
施設の維持管理	
③ 意図 (この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
保育事業が円滑に行えるように整っている。	
④ 上位目的 (どのような結果に結び付けるのか)	
児童福祉施設の充実	

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 予算額	円
イ	
ウ	
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 執行状況	%
イ	
ウ	
⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 決算状況	円
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標 (結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 保育所に満足している保護者数	人
イ	

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,330	1,771	2,046	2,015	2,015		
		事業費計 (A)	千円	1,330	1,771	2,046	2,015	2,015	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	1,104	1,152	1,152	1,152	1,152		
		人件費計 (B)	千円	4,925	5,139	4,564	4,564	4,564	0	0
		(A)+(B)	千円	6,255	6,910	6,610	6,579	6,579	0	0
活動指標		アイウ	円							
対象指標		アイウ	%							
成果指標		アイウ	円							
上位成果指標		アイ	人							

(3) この事務事業を取り巻く状況 (対象者・社会状況等) の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	南湖第二保育所は昭和27年に認可され、昭和53年に70名定員施設として創設されました。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	ここ数年は少子化の影響で一地域に一施設のため入所児童が減少している。そのため、平成26年度4月に南湖第一保育所と統合して新たに公設運営保育所としてスタートすることになった。
③ 事務事業に対して関係者 (市民、事業対象者、議会等) からどんな意見・要望が寄せられているか?	一地域一保育所で、地域の夏祭りや小学校との交流も盛んでよい関係が保たれていたが、園舎の老朽化と少子化で南湖第一保育所と統合し、平成26年4月に公設運営の保育所としてスタートする。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☒ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☐ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	自然な風や太陽を感じるように努め、冷暖房は必要などきに使用するよう、児童の基礎体力が付くような取り組みを保育所全体で行っている。保護者へのお知らせは、すぐに対応するため、各部屋の前に大きく張り出した、門のところに掲示して保護者に分かるように連携を図っている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	光熱水費、コピー使用料の軽減を図った保育所運営。

事務事業名	南湖第二保育所維持管理事業	所属部	保健福祉部	所属課	南湖第二保育所
-------	---------------	-----	-------	-----	---------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由 ↓] 児童福祉法に基づく政策施策である。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☒ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 妥当である ⇒ [理由 ↓] 保育所は、入所児童がここ数年減少している現状であるので、南湖第一保育所と統合し、公設運営保育所として平成26年4月スタートすることが決定し、保護者のニーズに応えていく。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由 ↓] 本市の未来を担う児童に対して、公共性のある施設でのサービス提供は今後も必要である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由 ↓] 維持管理事業であるため、成果の向上の余地がない。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入 ↓) ☒ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由 ↓] 統合することでコスト削減となり、児童により環境で安全で安定した生活の保育が提供できる。
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容 ↓] 児童の受け入れ施設がないと保護者が安心して勤務することが出来ない。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由 ↓] 施設運営で保育にかかる児童の受け入れ施設のため、休止・廃止は出来ない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 園舎の老朽化の為、修繕費は今後増加が予想され、削減余地がない。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由 ↓] 伝票作成等の人件費であるため、これ以上の削減は困難である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案 ↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由 ↓] 施設運営であるための維持管理事業費なので受益機会・受益者負担の適正化を見直す必要はない。

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☐ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑫																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					